

マスタープラン演習 住環境

TA： 青木日花 中澤光希
メンバー： 上杉朋花 日下大河 牧内友哉 興美咲子
大塚大登 蝦名杏心 戸崎景太 山内大輔

2024年度 課題班

1

住環境とは？

2

住環境とは

住居や生活の場を取り巻く**生活環境**の総体。
狭義には物的な**住宅まわりの環境**、広義には**社会的・経済的・文化的な環境**をも含む。

WHOによる「居住環境の4つの理念」

安全性	生命・財産が災害から安全に守られていること
保健性	肉体的・精神的健康が守られていること
快適性	美しさ、レクリエーションなどが十分に確保されていること (教育・福祉等の文化性を含む)
利便性	生活の利便性が経済的に確保されていること

<参考文献>1961年の世界保健機関(WHO)の住居衛生委員会 第一回報告書「健康な居住環境の基礎」4項目 浅見泰司「住環境 評価方法と理論」東京大学出版会

2

私たちにとっての理想の住環境とは？

3

住民の **幸福度** が高い状態にあること

住民の **Well-being** を向上させることが
より良い住環境を作り上げる！

Well-being：身体的・精神的・社会的に良好な状態であること

3

Well-beingに関する取り組み事例

4

- **満足度・生活の質に関する調査（内閣府）**
「満足度・生活の質に関する調査」は、我が国の経済社会の構造を人々の満足度（Well-being）の観点から多面的に把握し、政策運営に活かしていくことを目的とするものです。満足度・生活の質を表す指標群（Well-beingダッシュボード）では、国民生活を様々な角度から、統計データを用いて一覧表示しています。
- **新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査（内閣府）**
「Well-beingに関する関係省庁連絡会議」を開催し、Well-beingに関する取組の推進に向けて、情報共有・連携強化・優良事例の横展開をはかることとしています。関係府省庁におけるWell-being関連の基本計画等のKPI、取組・予算をとりまとめています。
- **「ウェルビーイング向上のための学校施設づくりアイデア集」の公表（文部科学省）**
文部科学省では、「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」および「学校施設の質的改善・向上に関するワーキンググループ」において、新しい時代の学びを実現する学校施設の具体的な整備事例と教育上・生活上の効果について、また、学校関係者等の参画による豊かな学びの環境整備について、検討を行い、「ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集」を取りまとめました。

[内閣府ホームページ（Well-beingに関する取組）](#) [文部科学省ホームページ](#)

4

世代別「Well-being」を考える

5

親子世代：行動範囲は狭め・子供の安全が第一 - 公園が近くにある - 遊び場がある - 学校/保育園が充実している - 犯罪が少なく治安が良い - 街灯が多く道が明るい - 地域コミュニティの形成が容易 - 自転車を安全に漕げる・安全に歩ける - 子育て支援が充実している 	働く世代：時間制約あり・バリエーションがほしい - 通勤が快適である - 駅が近い - 渋滞が少ない - 在宅ワークの環境が整っている - サードプレイスなどがある - 息抜きができる場所がある - 夜遅くまで営業する飲食店 - 友達と会いやすい 
若者世代：自由な時間が多い・楽しいことがしたい - 交通の便(駅へのアクセス・公共交通の充実) - 自然を感じてゆっくりできる場所がある - 鳥の囀りが聞こえる - まちに賑わいを感じられる - レクリエーション施設が充実している - 幅広い世代が生活し交流が生まれている - 空気が澄んでいる - 近くに医療機関がある 	高齢者世代：車以外での移動が困難・医療施設が必要 - バリアフリーの拡充 - 車なし生活での交通の便がいい - 訪問医療が充実(家で最期を迎えられる) - 医療機関が近くにある - 医療/福祉施設が充実している - 商業施設の近さ - 生活必需品がすぐ手に入る - くつろげる場所がある 

5

世代別「Well-being」を分類

6

<市内での各項目の再定義>

安全性 人への危害・損害が許容可能な水準に抑えられていること 快適性 緑地の美しさや生活を+αでより良くする施設が確保されていること	保健性 肉体的・精神的に健康が保たれていること 利便性 どんな世代の人も便利に暮らすことができる(日常生活が億劫にならない)こと
---	---

親子世代：行動範囲は狭め・子供の安全が第一 - 公園が近くにある - 遊び場がある - 学校/保育園が充実している - 犯罪が少なく治安が良い - 街灯が多く道が明るい - 地域コミュニティの形成が容易 - 自転車を安全に漕げる・安全に歩ける - 子育て支援が充実している 	働く世代：時間制約あり・バリエーションがほしい - 通勤が快適である - 駅が近い - 渋滞が少ない - 在宅ワークの環境が整っている - サードプレイスなどがある - 息抜きができる場所がある - 夜遅くまで営業する飲食店 - 友達と会いやすい 
若者世代：自由な時間が多い・楽しいことがしたい - 交通の便(駅へのアクセス・公共交通の充実) - 自然を感じてゆっくりできる場所がある - 鳥の囀りが聞こえる - まちに賑わいを感じられる - レクリエーション施設が充実している - 幅広い世代が生活し交流が生まれている - 空気が澄んでいる - 近くに医療機関がある 	高齢者世代：車以外での移動が困難・医療施設が必要 - バリアフリーの拡充 - 車なし生活での交通の便がいい - 訪問医療が充実(家で最期を迎えられる) - 医療機関が近くにある - 医療/福祉施設が充実している - 商業施設の近さ - 生活必需品がすぐ手に入る - くつろげる場所がある 

6

私たちの考える土浦の目標

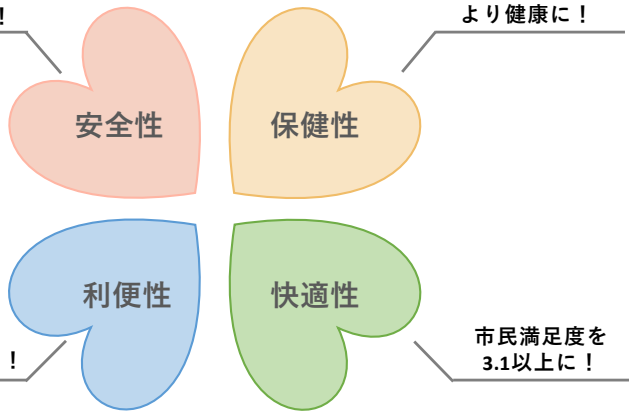
7

目指せ茨城県平均！

より健康に！

誰もが住みやすいまちに！

市民満足度を3.1以上に！



7



8

【安全性】定義

9

住環境における4つ要素の中で
安全性は最も基礎となる部分

土浦住民の**安全性に対する満足度は高いが**、事故・犯罪などの件数は**県内最低レベル**

より幸福度の高い住環境を目指すには、生活の基盤となる「**安全性**」をもっと向上させるべき！

安全性の定義 人への危害・損害が許容可能な水準に抑えられていること
→ まずは茨城県の平均

安全性の分類

- 日常安全性
 - 防犯性
 - 交通安全性
 - 生活安全性
- 災害安全性
 - 保健性と協調

※他の項目がカバーしているため除外

防犯性

- ・犯罪が少なく治安が良い
- ・街灯が多く道が明るい
- ・防犯カメラ
- ・防犯灯

交通安全性

- ・安全に自転車が増える
- ・安全に歩ける
- ・街灯が多く道が明るい
- ・見通し
- ・交通規制

生活安全性

- ・バリアフリーの拡充
- ・落下危険物の除去
- ・規制や危険性の表示

※下線はWell-beingの達成要素として列挙したもの

9

【安全性】①防犯性-犯罪-

10

1000人あたりの刑法認知件数の推移

土浦市は満足度調査報告書(令和2年度)
「地域ぐるみで取り組む防犯のまちづくり」に対する満足度は
3.28
(1=不満/2やや不満/3どちらともいえない/4やや満足/5満足)
2015年から全く変化が見られず、やや高い数値になっている

出典：茨城県警察市町村別の認知件数・犯罪率、警視庁犯罪情報(5年分)より作成

土浦駅周辺

- 住宅侵入窃盗が多い
- この地域は全体的に古い建物が多いため、高齢者の住む住宅が狙われるのでは？

荒川沖駅周辺

- 駅東側に犯罪が多い
- 車上ねらいが多い
- 有料駐車場が多数存在するため被害に遭いやすい？

10

【安全性】①防犯性 課題

11

土浦市として「犯罪」に対しての**意識が薄い**

土浦市の令和5年度犯罪率順位は**4位**/44市町村

土浦市の住民満足度調査では防犯まちづくりの満足度が**3.28**とやや高い
(前回調査(2015年)より全く変化なし)

現状で具体的な**目標はない**

費用対効果が見込みにくい分野のためお金をかけることが難しい

現在の防犯に対する主な取り組みは**防犯カメラ**と**防犯灯**

住民らが**防犯**に対してあまり**関心がない可能性**あり

犯罪を減らすための**積極的な取り組み**がない

11

【安全性】①防犯性-空き家-

12

● 土浦市の**管理不全の空き家**は**274**件

● 調査**未完了**の空き家の割合が**43.7%**

現地見学にて発見した管理不全の空き家

＜管理不全空き家の基準＞

- ・屋根や外壁の一部が痛んだり汚れたりしている
- ・ガラスなどが割れたまま放置されている
- ・草木が管理されていない
- ・敷地内にゴミなどが散乱されている

土浦市の取り組み

- ・管理不全な空き家に関する情報提供
- ・空き家の譲渡所得3000万円の特別控除
- ・土浦市空家等対策協議会の設置
- ・茨城県空家セミナーの動画配信
- ・土浦市空家等対策の推進に関する条例

中学校区別の「管理不全」空き家の数

地区名	管理不全	H25からの変化	調査未完了
一中地区	13	▲42	359
二中地区	28	▲2	0
三中地区	68	▲1	146
四中地区	5	▲70	510
五中地区	37	▲1	0
六中地区	35	▲25	116
都和地区	30	+1	0
新治地区	31	+8	0
合計	247	▲132	1131

12

【安全性】①防犯性 課題

13

空き家対策への取り組みの効果が薄い

土浦市の管理不全の空き家は **274** 件調査未完了の空き家は **43.7%**空き家バンクの登録件数 **1** 件
(2022年度マスタープラン策定時の調査時も1件)空き家相談会の年間実施回数 **1** 回
(目標実施回数は年3回)

地区により取り組みの進捗に差がある

管理不全の空き家への対応と調査未完了の
空き家の調査を両方とも進める必要がある空き家バンクの登録件数が少ない状態が
続きながらも政策として掲げ続けている数多くの相談会や情報提供をしているが
空き家の数に大幅な改善が見られない地区もある

提言 地区を超えた連携・効果のある対策に絞り、より効果的に

13

【安全性】②交通安全性

14

令和6年土浦市

- 交通事故発生件数 **331** 件 (県内3位)
- 交通事故発生率 **23.4** (件/万人) (県内4位)
- 死亡件数 **5** 件 (県内5位)
- 負傷者数 **432** 件 (県内5位)



14

【安全性】②交通安全性

15

●道幅が狭く車との距離が近い



- ・神立駅周辺の道路
- ・歩道の幅員が狭い
- ・特に夜は車が近く感じるため、恐怖心を抱く可能性がある
- ・自動車目線では対向車と自転車と同時に避けることが困難

●花室川沿いの道路が暗黙の了解で「一方通行」

<住民へのヒアリングより>

- ・花室川沿いの道路が狭く路面が悪いため、相互通行ができない
→地元住民の中では暗黙の了解で一方通行になっている
→外部からの来訪者はルールを知らず戸惑う＝危険
- ・夏場は草が腰辺りまで伸びてしまい、視界が悪い



15

交通安全性 対策のための活動

16



<土浦市役所生活安全課にヒアリング>

- 自転車乗用車用ヘルメット購入費の一部補助（今年度開始）
 - ・最大2000円までを市が負担する制度
 - ・現在までの申請件数は計91件
 - ・申請の80%は高齢者から
 - ・広報誌で宣伝を行っている
- 四半期ごとに全国交通安全運動・交通事故防止県民運動を実施
 - ・年に4回交通安全運動の期間を設けイベントを実施
 - ・街灯キャンペーンには土浦警察署や土浦地区交通安全協会等の関係団体の方々約150名が参加
 - ・市のホームページや広報誌にて呼びかけ
- 通学路安全プログラムの推進
 - ・学校関係者や警察、市の関係課、関係機関で合同点検を実施
 - ・生活安全課ではカーブミラーや路面標示の対策を行う

16

【安全性】②交通安全性 課題

17

事故が多い層・減らしたい層に対策が届いていない

土浦市の今後の目標

「自転車のまち」として発展していくこと
自転車事故を減らすこと（特に高校生）

- ・広報誌をあまり見ない高校生に補助金の情報は届いていないのでは？
- ・本当にヘルメット購入費の補助だけでいいのか？
- ・現状不足している取り組みはないと言えるのか？

提言

- ・高校生に特化したアプローチ
- ・補助金以外の取り組みの検討

現状

- ・事故件数が県内でもトップクラス
- ・潜在的な危険性の高い場所が多く存在する
- ・自転車のヘルメット申請が少ない
- ・高校生に補助金を利用してほしいが申請がない
- ・広報誌のみでしか宣伝できていない
- ・自転車事故防止のための取り組みが現状はヘルメット補助金のみ
- ・市としては現状不足している取り組みはないと考えている（ヒアリングより）

17

【安全性】課題まとめ

18

土浦市として「犯罪」に対しての意識が薄い

- ・犯罪件数が多い
- ・犯罪が多い地域であることを自覚していない
- ・犯罪予防の対策が少ない

空き家対策への取り組みの効果が薄い

- ・管理不全空き家がある
- ・地区ごとで取り組みの差が激しい
- ・対策が住民に届いていない

事故が多い層・減らしたい層に対策が届いていない

- ・交通事故件数が県内でもトップクラス
- ・自転車事故に対するアプローチが不足している

18



19

【保健性】

20

保健性

※下段はWell-beingの達成要素として列挙したもの

環境保健性

- ・水質
- ・悪臭
- ・騒音
- ・日照
- ・大気環境
- ・土壌汚染
- ・電磁波
- ・光害
- ・自然を感じてゆっくりできる場所がある
- ・鳥の囀りが聞こえる

健康保健性

肉体的健康

医療・福祉
バリアフリー

精神的健康

コミュニティの
快適性

20

【保健性】世代ごとのウェルビーイングの達成要素と保健性の評価指標					21
	高齢者	働く人	親子	若者	
公害防止	空気が澄んでいる	空気が澄んでいる	空気が澄んでいる	空気が澄んでいる	
伝染病予防	訪問医療の充実 医療/福祉施設の充実 医療機関が近くにある				
自然環境の保護	クリア○				
生活安全性 バリアフリー化	バリアフリーの充実				
コミュニティの 快適性	良好なコミュニティ の確保				
指標以外の項目 (快適性・利便性の項目)	くつろげる場所がある	息抜きができる 場所がある	子育て支援が 充実している		
世代共通：環境保健性 高齢者：健康保健性－医療・福祉 バリアフリー コミュニティ確保					

21

【保健性】課題の定義

22

健康保健性：高齢者 満足度

環境保健性：全年代共通 満足度

重要度3.8以上 満足度3.3以下

重要度3.8以上 満足度3.1以下

R2_65歳 以上 平均	H27	差	施策項目
3.02	2.95	0.07	高齢者や障がい者の生活の場の提供
3.24	3.03	0.21	高齢者の保健・医療・福祉などのサービス
2.76	2.73	0.03	高齢者や障がい者に配慮した バリアフリーによる施設や道路の整備
2.87	3.03	-0.16	高齢化やライフスタイルに対応した 居住環境の整備

青：健康保健性－肉体的健康 医療・福祉
赤：健康保健性－肉体的健康 バリアフリー 居住環境
緑：健康保健性－精神的健康 コミュニティ

R2土浦市民満足度調査報告書より作成

順位	施策項目	令和2 年	平成 27年	差
43/53	湖や川を きれいにする対策	2.97	2.95	0.02

Well-beingの条件
空気が澄んでいる

R2土浦市民満足度調査報告書より作成

【1 不満である 2 やや不満である 3 どちらでもない 4 やや満足している 5 満足である】

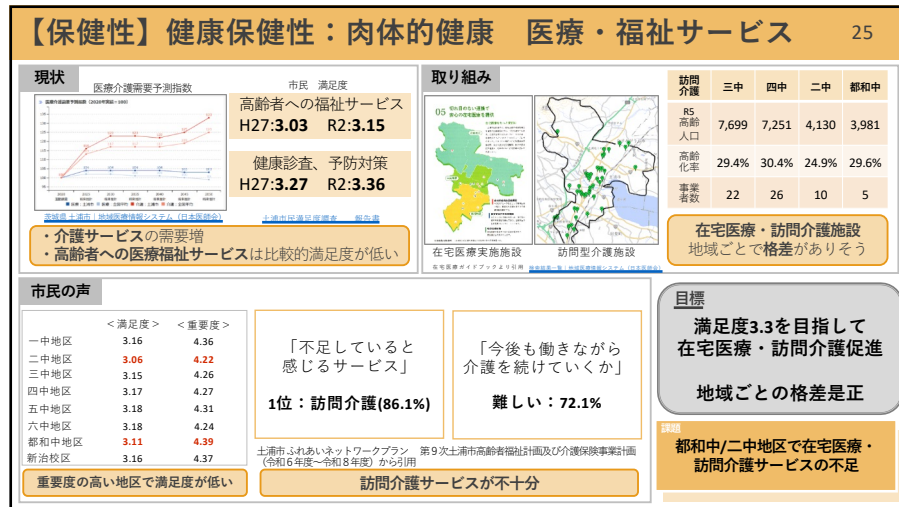
22

【保健性】課題の選定		23
保健性		※下線はWell-beingの達成要素として列挙したもの
環境保健性	健康保健性	
- 水質 - 悪臭 - 騒音 - 日照 - 大気環境 - 土壌汚染 - 電磁波 - 光害	- 肉体的健康 - 精神的健康 - 医療・福祉 - コミュニティの快適性 - バリアフリー	
- 自然を感じてゆっくりできる場所がある - 鳥の囀りが聞こえる		

23

【保健性】環境保健性：水質 悪臭		24
現状		
生活排水 工場排水 畜産	窒素・リン 有機物流入	富栄養化
		アオコ 大量発生
		景観悪化 悪臭 レジャー障害
取り組み	目標値	目標
霞ヶ浦流域の下水道整備状況 流域内約：93万人 処理人口：約61万人 処理人口割合：65.7% 下水道の接続率：約91.4% 市は生活排水システムの転換に力を注ぐ (補助金) (ヒアリングより)	泳げる霞ヶ浦 遊泳用プールの衛生基準 pH5.8～8.6以下	水質改善による トリアスロンの実施 霞ヶ浦のイメージアップ 市民の満足度向上 市民の環境保護意識向上
下水道への接続援助		
市民の声・意識	浄化啓発イベント	
汚れていると感じる人 62.5%と多い	H30 知ってて参加しない 76% 霞ヶ浦水辺ふれあい事業 22.5% 霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦 33.5% 参加率・認知度共に低い状況にある	
数年霞ヶ浦に行っていない 45.6%		
	第三期土浦市生活排水対策推進計画より抜粋	
	富栄養化による悪臭・景観悪化・水質汚濁 生活排水システムの改善	
	課題 市民：霞ヶ浦に対しての理解、配慮 市：援助体制 活動の広報	

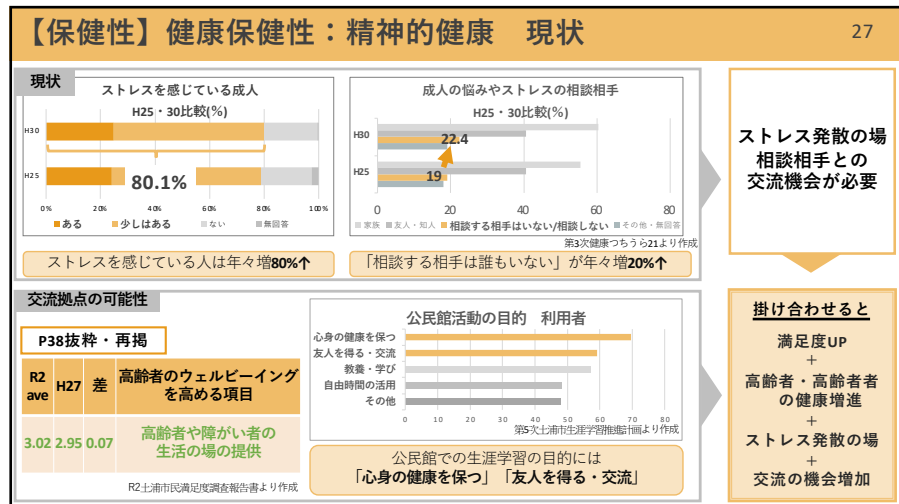
24



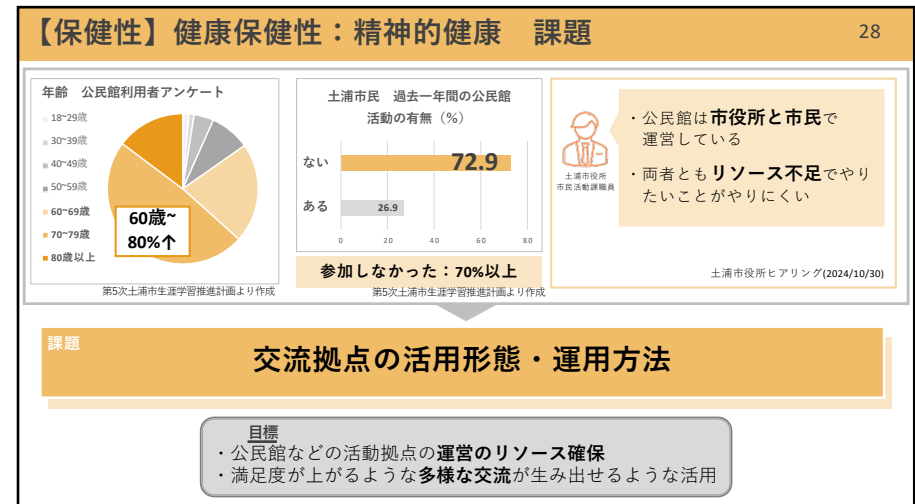
25



26



27



28

【保健性】課題 まとめ

29

富栄養化による悪臭、景観悪化、水質汚濁 生活排水システムの改善
市民：霞ヶ浦に対する理解、配慮 市：援助体制 活動の広報
都和中地区・二中地区で在宅医療・訪問介護サービスの不足
県主体の未着手事業：駅周辺道路のバリアフリーなど
バリアフリーの更新
交流拠点の活用形態・運用方法

29



30

【快適性】定義・世代ごとの評価指標

31

快適性	快適性評価指標	Well-beingの条件
人為的環境 景観 建物・街路・自然環境など 騒音問題 迷惑行為の取締・施設の立地など 都市空間 街並み・道路・広場・公共施設など レジャー 公園・レジャー施設・娯楽施設など 独自に設定	街並み景観	街に賑わいを感じる (若者世代)
	都市空間の開放性	自然を感じてゆっくりできる場所がある (若者世代)
	迷惑施設との隔離	くつろげる場所がある (高齢者世代) 息抜きできる場所がある (働く世代)
自然環境 緑地 街路樹・公園・空き地・山など	自然環境の快適性	自然を感じてゆっくりできる場所がある (若者世代)
	レジャーや娯楽の充実	息抜きできる場所がある (働く世代) 子供を遊ばせる場所がある (親子世代) 街に賑わいを感じる (若者世代)

31

【快適性】市民の満足度と目標の定義

32

満足度	快適性の Well-beingを高める項目
3.23	騒音や振動が少ないなどの静かな環境の確保 (Well-being: くつろげる場所、息抜きができる場所)
3.04	まちや自然の景観の向上 (Well-being: 自然を感じてゆっくりできる場所)
2.82	公園、子どもの遊び場などの整備 (Well-being: 子供が遊べる場所)
3.42	空気のきれいな良好な環境の保全 (Well-being: 自然を感じてゆっくりできる場所)
2.49	中心市街地のにぎわい対策 (Well-being: 街に賑わいを感じる)
3.06	まちの風紀や雰囲気 (Well-being: 街に賑わいを感じる、自然を感じてゆっくりできる場所)

満足度が**3.1**以下のものを
課題として取り上げる

- 自然を感じてゆっくりできる場所
▶ **緑地**
- 子供が遊べる場所
▶ **公園**
- 街に賑わいを感じる
▶ **レジャー**

32

【快適性】①緑地：緑被率と緑視率・現地調査

33

- ・土浦市の緑視率は**58.1%**
→森林や畑を含んだ値であるため
- ・well-beingの指標としては使えないのではないか？

より市民の生活感に近い
緑視率の値を指標として用いる

参考文献や自分たちが生活した中での体感から

整備された緑地の緑視率が25%以上あること が快適であると定義した



33

【快適性】①緑地：市の対策と課題

34

市の対策の現状

- ・市が保有する緑地は**市からの委託**などによって管理
- ・私有地の緑地管理は**市から干渉することはない**
- ・緑地の**管理基準は決めておらず**、
地域住民からの意見があればその都度対応している

課題 適切な緑地管理の基準が策定されていないことによる
緑地不足や緑地の整備不足

提言

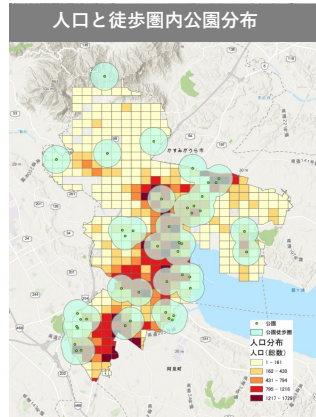
景観向上や安全性の確保を目指した**管理基準**の策定と
自治体による**管理の推進**が必要

34

【快適性】②公園：調査

35

人口と徒歩圏内公園分布



市民1人あたりの都市公園面積 **6.08 m²**

日本全体の平均 **10.8 m²/人**

茨城県の平均 **10.1 m²/人**

※一部南部地域や中央部で徒歩圏内に都市公園がない

市の現状

- ・土浦市保有の公園は年に**2回程度整備**を実施
- ・分譲公園はその地域の住民や自治体での管理を依頼
- ・新しい公園を作る計画はあるが、
用地、コストの問題からできていない

課題

人口量に対し公園が少なく
整備がされていない
公園も多い

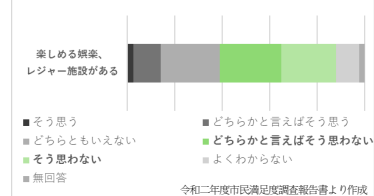


35

【快適性】③レジャー施設

36

市民の声



満足度は低いものの具体的に欲しいレジャー施設
や娯楽の要望を市に対して意見していない。

市の取り組みと対応



レジャーや娯楽の充実の課題については認識し
ており、少しずつ充実を図っている。

課題

市民と市の意思疎通ができておらず、適切な政策を行っていない

提言

市民が求めるレジャー施設・娯楽の把握
市や自治体が行き組む
レジャー施設・活動の市民利用促進が必要

36

【快適性】まとめ

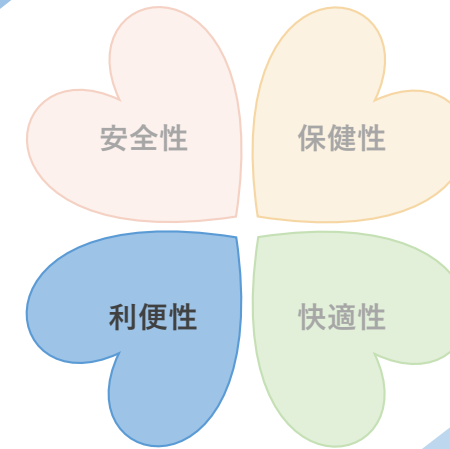
37

適切な緑地管理の基準が策定されていないことによる
緑地不足や緑地の整備不足

人口量に対して公園が足りておらず
整備されていない公園が多い

市民と市意思疎通が上手くいっておらず
適切な政策を行えていない

37



38

38

【利便性】定義・世代ごとの評価指標

39

利便性		利便性 評価指標	Well-beingの条件
日常生活	各種施設	日常生活	生活必需品がすぐ手に入る (全世代)
身近な生活環境に関わる インフラ整備	医療施設	各種施設	医療・商業施設が近くにある (全世代)
	公共・公益施設 商業施設 公園・緑地・水辺空間	各種施設	学校・保育園・公園が充実している (親子世代) 夜遅くまで営業する飲食店がある (働く世代)
交通	社会サービス	交通	公共交通機関が充実している (高齢者/若者世代) 駅へのアクセスが良い (働く世代/若者世代)
公共交通機関への近接 利用施設の整備	各種サービスの 提供体制整備	社会 サービス	訪問医療の充実 (高齢者世代) 在宅ワーク環境が整っている (働く世代)
	情報インフラの整備	世 代 共 通	日常生活利便・各種施設利便 親 子 世 代 : 各種利便 若 者 世 代 : 交通利便 働 く 世 代 : 各種利便・交通利便・社会的サービス利便 高 齢 者 世 代 : 交通利便・社会サービス利便

39

【利便性】市民満足度・課題定義

40

評価指標	満足度	施策項目	Well-beingの条件
日常生活	3.00	幹線道路や身近な生活道路の整備	
各種施設	3.15	商店やマーケットでの日常の買い物	生活必需品がすぐ手に入る (全世代)
	3.28	病院・診療所などの医療施設や診療体制	医療・商業施設が近くにある (全世代)
	3.09	地域における子育て支援の充実	学校・保育園・公園が充実している (親子世代)
	2.79	中心市街地の駐車場	公共交通機関が充実している (高齢者世代/若者世代)
交通	2.62	バス路線や鉄道などの公共交通網	駅へのアクセスが良い (働く世代/若者世代)
	3.15	高齢者の保険・医療・福祉サービス	訪問医療の充実 (高齢者世代)
社会サービス		(高齢者の保険・医療・福祉などのサービスは保健性を取り扱っているため除外)	

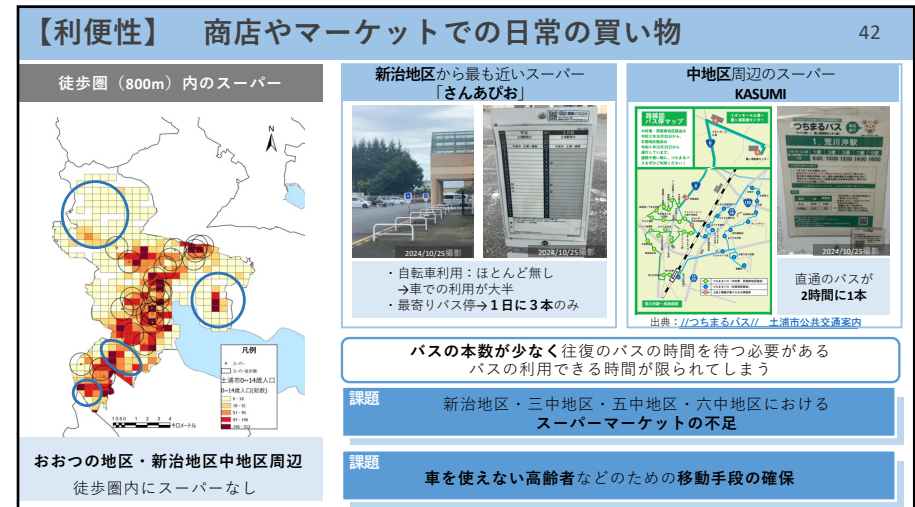
満足度が**3.3**以下のものを課題として取り上げる

- 生活必需品がすぐ手に入る
 - スーパー 商業施設
- 公共交通機関の充実
 - 公共交通網 駐車場の立地
- 学校・保育園の充実
 - 小・中学校 保育園・幼稚園

40



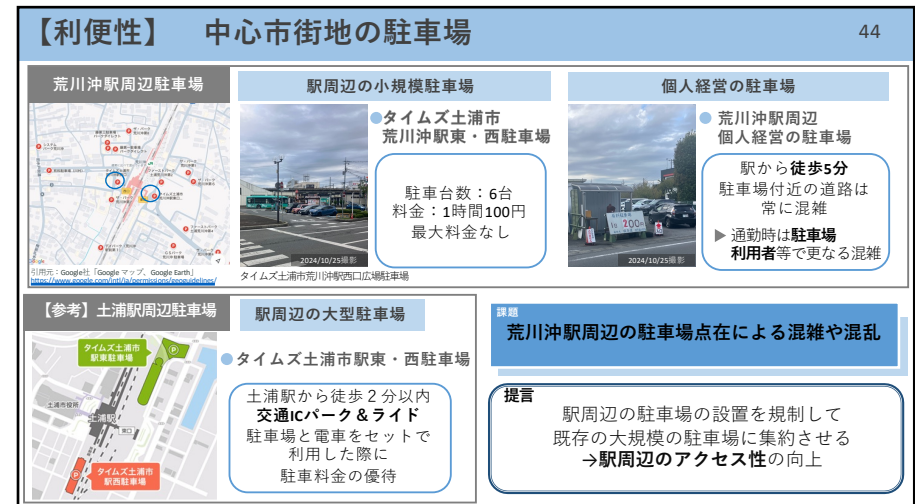
41



42



43



44

45

利便性 まとめ

- 新治地区、三中・五中・六中地区でのスーパーマーケットの不足
- 車を使えない高齢者などの移動手段の確保
- バスは場所や時間帯によって1時間以上待つ必要がある
- 駅周辺の駐車場の点在による混雑

45

46

課題のまとめ

安全性	保健性
○土浦市として「犯罪」に対しての意識が薄い・犯罪予防の対策が少ない ○空き家対策への取り組みの効果が薄い・地区ごとで取り組みの差が激しい ○事故が多い層・減らしたい層に対策が届いていない	○生活排水システムの改善 ○市民：霞ヶ浦に対しての理解、配慮市：援助体制 活動の広報 ○都和中地区・二中地区での在宅医療・訪問介護サービスの不足 ○県主体の未着手事業促進、更新 ○交流拠点の活用形態・運用方法
快適性	利便性
○適切な緑地管理の基準が策定されていないことによる緑地不足や緑地の整備不足 ○人口量に対して公園が足りておらず整備されていない公園が多い ○市民と市の意思疎通が上手くいっておらず適切な政策を行っていない	○新治地区、三中・五中・六中地区でのスーパーマーケットの不足 ○車を使えない高齢者などの移動手段の確保 ○バスは場所や時間帯によって1時間以上待つ必要がある ○駅周辺の駐車場の点在による混雑

46

47

世代別 課題の重要度

親子世代	働く世代
安全性 保健性 利便性 快適性 ・子供が安全に生活できる環境を望んでいる ・行く場所の選択肢が限られているなかでも子供と楽しい空間を共有したい	・限られた時間で快適な環境を求めている ・生活の中で+αとなる要素がたくさん欲しい
若者世代	高齢者世代
・自由に使える時間が多く行動範囲が広い ・友達と楽しいことをたくさんしたい！	・医療・福祉サービスが最も必要な層 ・車移動が不可な場合も多く、施設へのアクセス・医療福祉サービスが充実していると嬉しい

47

48

ご清聴ありがとうございました

48